

平成 28 年度佐賀県緑化運動・育樹運動ポスターコンクール審査会講評

【全体】

- ・地球を守る大自然を守るという大きな視点のものから、身近な緑を大切にしようという、幅広い作品が多く、審査が大変だった。特に、高校生の作品は、細かいところまで丁寧に仕上げられており、感動した。
- ・人物や木の表現の仕方が工夫されており、それぞれの思いが伝わってきた。
- ・緑と共に生きていきたいという願いを各学年毎に表現できていた。

【最優秀賞（小学生の部）】

- ・低学年の割には、細かい描写ができており、ワクワク感が伝わってきた。
- ・画用紙いっぱいに鮮やかな色彩で樹木が描いてあり、そのまわりで遊んでいる人や動物がとても生き生きと楽しげに描かれていた。
- ・大きな木を中心に楽しそうに遊んでいる子どもたちの様子がよく表現できている。新しい木の芽を発見して喜んでいる様子も印象に残った。

【最優秀賞（中学生の部）】

- ・大切な森や木を大事に育てようという思い、木を育もうという気持ちが全体的に表現されており、すばらしい。
- ・人物の表情がとても愛らしく、抱えた芽がとても大切なものだということがはっきりと伝わってきた。
- ・鮮やかな配色で目を引き付けられる。林の中で新しい命を大切に育てたいというメッセージが伝わってくる。

【最優秀賞（高校生の部）】

- ・未来にも、木をしっかり引き継いでいこうという雰囲気がにじみ出ていて、森林のすばらしさが醸し出されている。
- ・森の中の様子が臨場感にあふれ、とても美しい。その中で二人で芽を育てている表情が生き生きと輝いている。
- ・豊かな森を細かなところまで表現できている。いつまでも緑を絶やさず育てたいという思いが伝わる。木の芽を植える男の子と女の子のにこやかな表情が良い。